

〈PR〉

カラダの 相談室



北浜えぎ整形外科 院長
恵木 丈さん

第1回

手外科とは

ヒトの手の大きな特徴、それは親指(母指)と他の指先をくっつける動作(つまみ動作)ができることです。その多様な動きにより私たちは日々手を酷使しています。変形性関節症と言えば膝が有名ですが、手も同じ症状が起こります。原因は加齢だけではなく、生活習慣病も関係しています。

加齢で手の関節軟骨が変性 生活習慣病で症状の進行も

Q 「手外科」は聞きなれない言葉ですが、

A 手外科は関節や筋肉、靭帯などの運動器を診る整形や形成外科の中で、主に肘から指先を診察・治療しています。体には約200個を超える骨がありますが、手は40個を超え、筋肉、靭帯などで複雑に結ばれています。その連結によって精巧で繊細な動きが可能になっています。

犬猫は指がないので物は持てません。猿は指があるので固く握れます。ヒトになって初めて母指が形成され「つまみ動作」が可能となり、高度な知能ももたせて細かい作業ができるようになりました。母指が何らかの障害を受けて機能が低下すると、手の働きはほぼ半減するともいわれています。

Q 最近手の指が曲がり腫れているようなのですが、手外科を受診したらよいでしょうか。

A そうですね。私も手外科医が診る中でも多い疾患の一つ、「変形性関節症」です。関節軟骨が変性する疾患では膝が有名ですが、実は膝以上に手指は頻度が高いことがわかっています。代表的な疾患はヘーデン結節▽ブシャール結節▽母指CM関節症ーなどです(図)。

軟骨の変性が当初の変化です。軟骨がすり減ると関節の適合性が損なわれ、骨同士の摩擦が起こってきます。そして、骨は刺激を受けると過成長し、骨棘(つぎよこ)が形成され、変形が進行します。

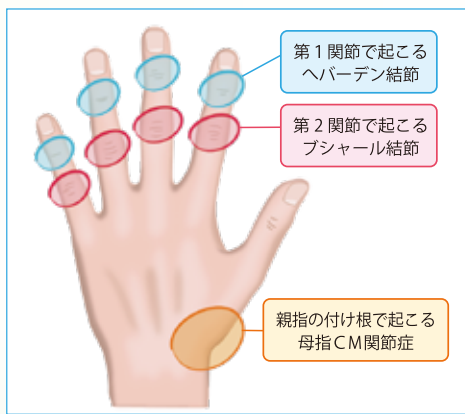
Q 発症の原因は何が教えてください。

A 主因は加齢です。その後の進行は、使い過ぎもありますが、喫煙や肥満、脂質異常症などの生活習慣病に代表される慢性炎症、後天的な

遺伝子の変化などもあります。代表的な症状は「痛い」「動きが悪い」の2つです。現代医学では進行を止める薬はありませんが、症状に応じたリハビリや投薬をすることで一定の改善が見込めます。関節が破綻して、痛みなどの制御ができない場合は手術です。手術には「関節形成術」「関節固定術」「人工関節置換術」があり、体どの場所でも基本的にこの3通りの中で対応し、最適な方法を適応します。

このほか自由診療になりますが、再生医療のひとつ「PFCEFD」治療を当院では施行しています。自分の血液から成長因子を生成し、濃縮・冷凍乾燥します。その作業は企業に委託します。治療では冷凍された成分を生理食塩水で溶かし患部に注射する方法です。主に変形性膝関節症に使われますが、その他の関節でも適応可能です。

関節症以外では腱鞘炎を高頻度に診察します。多いのは「ばね指」です。指の付け根に痛みが生じ、進行すると指が引っかかり弾けるような症状になります。



手には繊細な機能があります。異常を感じたら「肘から指先」を専門に診る手外科医に相談してください。日本手外科学会のホームページに、手外科専門医や指導医が掲載されています(次回はリウマチ)。



えぎ・たけし 医学博士。大阪市立大学医学部卒業。同大学附属病院や関連病院などで整形外科、手外科、リウマチ科、リハビリテーション科の診療や研究、若手医師の育成を行う。日本整形外科学会専門医、日本手外科学会専門医、指導医、代議員。日本リウマチ学会専門医、指導医、評議員。令和3年4月開院。Best Doctors in Japan (2012年から連続選出中)など。
☆北浜えぎ整形外科 大阪市中央区高麗橋2の4の2
メディカルビル北浜3階
Tel 06・6205・8338

〈企画・制作〉産経新聞社メディア営業局